

学生のモチベーションを高める 授業デザインと実践

宮崎公立大学 人文学部
川瀬和也

自己紹介

川瀬和也（宮崎公立大学 人文学部）

担当授業

- 哲学（200人を超える講義科目・必修）
- 倫理学（150人程度の講義科目・選択必修）
- 現代哲学（20人程度の講義・演習科目）
- 基礎演習・基幹演習（1, 2年生向けの演習）
- 専門演習（いわゆるゼミ、卒論指導も）

自己紹介

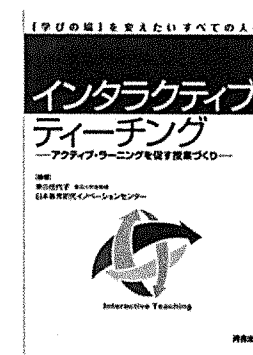
川瀬和也（宮崎公立大学 人文学部）

FDとのかかわり

- 東京大学のプレFD「東京大学フューチャー・ファカルティ・プログラム」（東大FFP）1期生
- 東京大学大学総合教育研究センター特任研究員（東大FFPの運営・広報等を担当）
- JMOOC講座「インタラクティブ・ティーチング」開発スタッフ
- 徳島大学総合教育センターにて勤務（2016年3月まで）

自己紹介

- ◆ 栗田佳代子・日本教育イノベーションセンター編著『インタラクティブ・ティーチング：アクティブ・ラーニングを促す授業づくり』河合出版
- ◆ 第3章「学習の科学」担当
- ◆ 本日の講座に関連する内容あり！



目標

1. 学生の動機付けに影響する要因を説明できる。
2. 自身の授業に取り入れたい、学生の学習意欲を高めるための工夫を「価値」「期待」「目標」「環境」という言葉を用いて説明できる。
3. モチベーションを高める授業実践のための工夫を実際に体験する。

CONTENTS

1. モチベーションの理論の重要性
2. 価値と予期を理解しよう
3. 目標と環境の役割
4. 価値・予期理論を授業に活かそう

CONTENTS

1. モチベーションの理論の重要性
2. 価値と予期を理解しよう
3. 目標と環境の役割
4. 価値・予期理論を授業に活かそう

「モチベーション」が重要な理由

- モチベーションは、学生の「学び」の質を左右する
- 立命館大学の学生参加型FD（「立命館大学学生FDS」）では、「講義が面白いと思った瞬間」をテーマにしたディスカッションで、学生が「ティーチング・スキル」と並んで「学生のモチベーション」を挙げている
- 研究の蓄積があり、授業設計のヒントを得やすい（cf. Järvelä & Renninger 2014）

さまざまなモチベーション理論

- 欲求階層説
- 自己効力感
- フィット理論
- X理論・Y理論
- ソーシャル・サポート
- スピル・オーバー仮説
- 集団凝集性
- ジョハリの窓
- コンフリクト理論 etc……

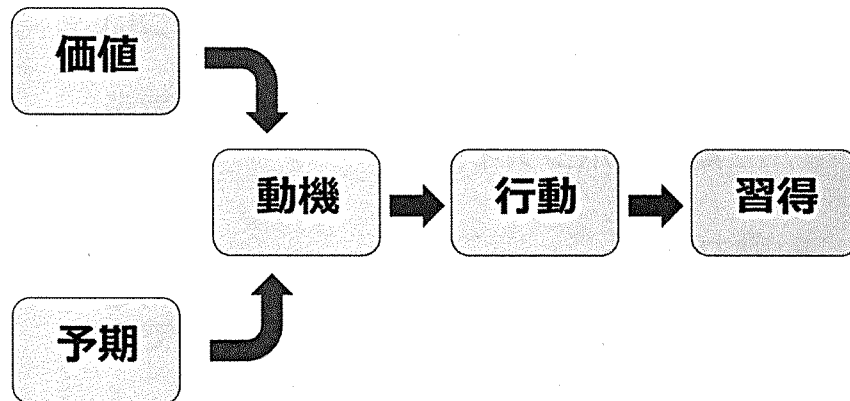
ここでは、「価値-予期理論」に着目

価値-予期理論を用いる理由

- モチベーション理論の多くは、企業におけるマネジメントの文脈に特化
- 価値-予期理論は組織運営の文脈を離れて応用しやすい

→授業デザインに応用しやすい

価値-予期理論



CONTENTS

1. モチベーションの理論の重要性
2. 価値と予期を理解しよう
3. 目標と環境の役割
4. 価値・予期理論を授業に活かそう

価値とは

- その人にとっての目標の重要性
- 人は、自分が相対的に高い価値をおく目標に向かうとき、それを達成するための行動に高いモチベーションを持つ

価値の種類

- 達成価値
 - ❖ 目標やタスクの習得と達成から得られる満足感
- 内発的価値
 - ❖ タスクを行うことそのものから得られる満足感
- 道具的価値
 - 他の重要な目標を達成する上で、その活動や目標が役に立つ程度

予期とは

- 望ましい目標や成果を達成できるという予測のこと
- 望ましい目標や成果を達成できると思えると、それを達成するために必要な行動に取り組むモチベーションが生まれる

予期の種類

- 結果予期
 - ◆ 特定の行動が望ましい結果と結びついていて感じるかどうか
 - ◆ 結びついていて感じる時、結果予期は「ポジティブ」
- 効力予期
 - ◆ 自分は望ましい結果をもたらす行動を特定し、組織化し、開始し、実行できるという信念

ワーク：価値と期待（１）

- 価値と期待に訴えてモチベーションを高めようと工夫された文書に、フィットネスクラブの広告があります。
- お手元に「ダンス」と「プールエクササイズ」についての広告があります。これらから、読み手にとっての「価値」と「期待」を高める工夫を探してみましよう。

ワーク：価値と期待（３）

個人ワーク（３分間）

課題について

前から奇数番目の方 … 「ダンス」

前から偶数列の方 … 「プール」

「価値」「予期」それぞれに関する工夫を探して付箋に書き、ワークシートに貼りましよう。

ワーク：価値と期待（２）

1. 指定された課題について、個人で、価値・予期を高める工夫を探し、ワークシートにまとめる
2. 隣の方とペアになり、シートをブラッシュアップ
3. 4人グループになり、シートにまとめた内容を説明・共有

ワーク：価値と期待（４）

ペアワーク（３分間）

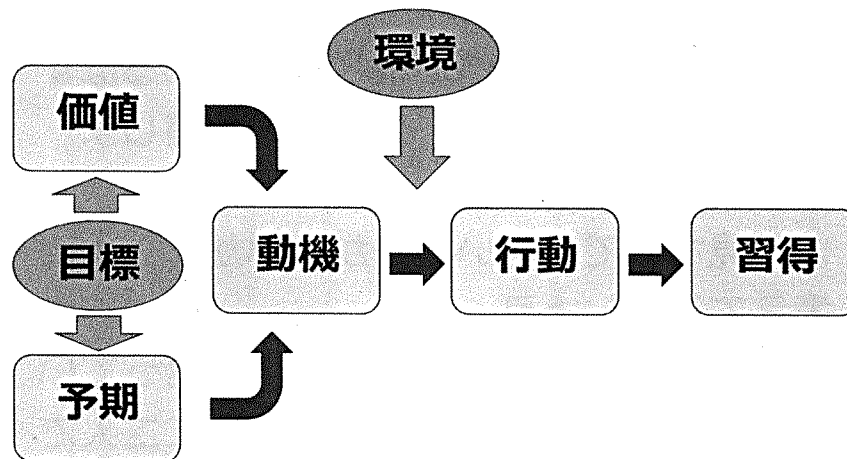
- お隣の方（同じ課題に取り組んでいるはずです）とワークシートの内容を共有しましょう。
- まだ見つけていない工夫がないか、二人で考えてみましょう。
- このあと、4人グループで説明し合っていたいただきますので、説明できるように二人で準備しましょう。

ワーク：価値と期待（3）

グループワーク（4分間）

- 前後のペアでグループを作ります。
- 「ダンス」ペアが、「プール」ペアに、見つけた工夫を説明しましょう。（1分）
- 「プール」ペアが、「ダンス」ペアに、工夫を説明しましょう（1分）。
- 疑問点や共通していると感じたことなどを4人で話しあいましょう。（2分）

価値－予期理論の隠れた要素



CONTENTS

1. モチベーションの理論の重要性
2. 価値と予期を理解しよう
3. 目標と環境の役割
4. 価値・予期理論を授業に活かそう

学生にとっての目標

- 学習目標
 - ◆ 活動や課題の内容について深く理解し、能力・知識を修得する
(ex. モチベーション理論を活用できる)
- 遂行目標
 - ◆ 求められた行動をすることで能力を得る・示す（遂行接近目標）
 - ◆ 基準を満たすことで無能でないことを示す（遂行回避目標）
(ex. テストで〇〇点を得る)

学生にとっての目標

- 課題回避目標
 - ◆ できるだけ少ない努力でできるだけ素早く課題を終わらせる
(ex. できるだけ楽に単位を取る)
- 感情的目標、社会的目標
 - ◆ 楽しい活動をする(感情的)、友達を作る(社会的)など、授業の内容と直接関わらない目標
(ex. 雑談が面白いと評判の科目を取る)

学生の目標と教員の目標

- 多くの場合、教員が想定するのは「学習目標」と「遂行目標」
- 学生の目標と教員の目標は必ずしも一致しない
- 学生の目標と教員の目標が一部でも一致するような工夫が、学生が抱く「価値・予期」を高める

環境とモチベーション

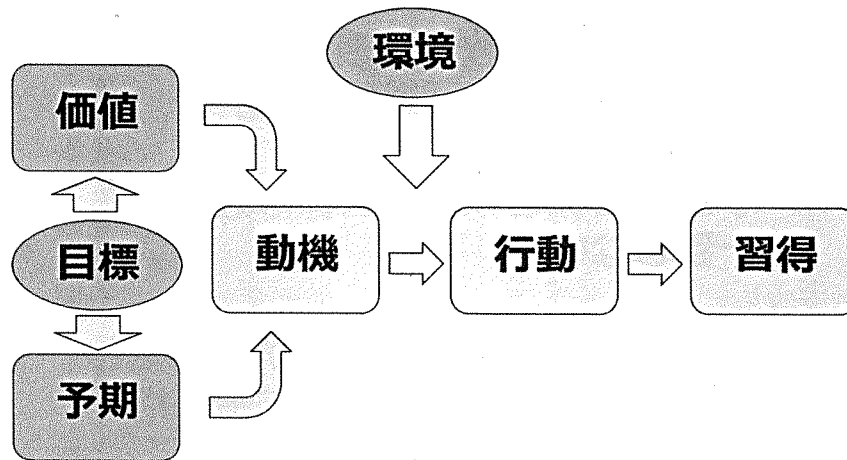
授業に価値・予期を感じているとき

- 環境が非協力的だと……
 - ◆ 学生は反抗的な態度を取る
 - ◆ 自分の能力を誇示する
 - ◆ 教員を出し抜こうとする
- 環境が協力的だと……
 - ◆ 学生は意欲的な態度を取る
 - ◆ この状態が理想的

CONTENTS

1. モチベーションの理論の重要性
2. 価値と予期を理解しよう
3. 目標と環境の役割
4. 価値・予期理論を授業に活かそう

価値－予期理論を授業に活かす



ARCSモデル

Attention (注意を引き付ける)

- 映像等で知覚的な刺激を与える。
- 学生の探究心に訴える。
- ワーク等で変化をつける。

Relevance (関連性を示す)

- 他の科目や学生の将来像と結びつける。
- 学生の個人的な興味に引き付ける。
- 学生の既有知識と結びつける。

ARCSモデル

Confidence (自信をつけさせる)

- 具体的なタスクを明示する。
- スモールステップで成功の機会を与える。
- 結果が偶然ではなく自分の努力によるものだと感じさせる。

Satisfaction (満足感を与える)

- 成果に対して適切なフィードバックを与える。
- スタンプなど目に見える報酬を与える。
- 学生を公平に扱う。

私が行っている工夫

振り返りテスト (授業終了時の小テスト)

- 内容の定着が第一義ですが、モチベーション維持の観点からも意義があると考えて実施しています。
- 授業で学んだことをもとに問題に答えることで、成功の機会を与えて次回以降に向けて予期を高めます。
- 授業を聞かずに小テストだけ答えようとする学生もいます (課題回避目標) が、小テストに答えるためには結局は講義資料を元に自分で学ぶしかないので、授業を聞いたのに近い学習成果が得られると考えています。

私が行っている工夫

ジグソー法の応用

- ジグソー法とは、クラス内に情報の不均衡を作り、お互いの交流を促す方法です。
- 今日の講座でも、2種類の資料を用いて、ジグソー法を取り入れたワークを行いました。
- より簡単な方法として、演習形式の授業等で行える、「その日の話し合いの内容を他のグループに伝える」という形でのジグソー法も活用しています。このやり方なら、課題の設定が難しいというジグソー法の難点をクリアできます。（これについては、このあと実践していただきます。）

体験！ 振り返りテスト

- お手元の「振り返りテスト」に取り組んでください。時間は5分間です。
- 早めに終わったら、QRコードからアクセスして、e-リアクションペーパーを体験してみてください。

私が行っている工夫

e-リアクションペーパー

- 「Googleフォーム」を活用して、質問を受け付け、次回に関連する「予習課題」に取り組ませています。
- QRコードからフォームにアクセスさせ、質問を書かせるという方式です。
- これにより授業内容を身近に感じさせ、「価値」を高められると考えています。
- 私の授業は200人規模なのでこの方法を用いていますが、もちろん通常の紙媒体のリアクションペーパー、ミニッツペーパーでも同じ効果が期待できます。

ワーク：授業に工夫を取り入れる

全体の流れ

1. ご自身の担当授業について、「ヒント集」も活用しながら、価値・予期を高める工夫、目標設定の工夫、環境づくりの工夫を考えて付箋に書き出し、シートに貼ってまとめる（15分）
2. 4人グループになり、シートにまとめた内容を説明・共有し、相互に質問やコメント（12分）

ステップ1：シートの作成

1. 「ヒント集」を読んでみましょう
2. ご自身の授業を振り返り、価値・予期、目標、環境それぞれに当てはまる工夫を既に行っていれば書き出しましょう。
3. 新たに取り入れてみたい工夫を、シートに書き込みましょう。

※全体15分、各3～7分

ステップ2：シートの共有

1. 4人グループになりましょう。
2. 作成したシートをもとに、既に行っている工夫・これから行いたい工夫を発表します。（各2分）

3. 質問・コメントをしましょう（各1分）

※（2 + 1）分×4人 = 12分

ワーク：ジグソー法

全体の流れ

1. グループメンバーに、左前方から時計回りに番号を振ってください。
2. その番号ごとのグループに分かれてもらいます。今回は7グループあるので、少し複雑になります。指示をよく聞いて移動してください。

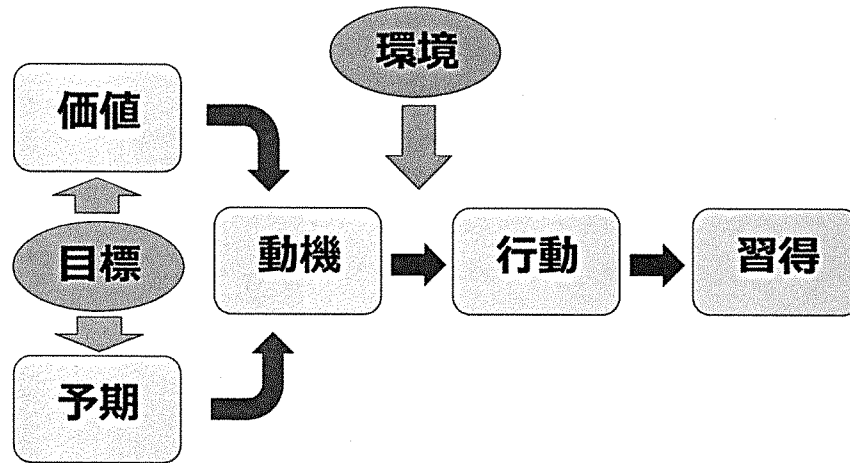
ワーク：授業に工夫を取り入れる

全体の流れ

3. 新しいグループに別れたら、もともとそのグループの場所に座っていた方に、そのグループでの話し合いの内容について、発表してもらいます。
4. 発表が終わったら、席を移動して、新たに自分がもっていた場所に来た方が、グループでの話し合いの内容について発表するようにします。

まとめ

1. 学生の動機付けに影響する要因を説明できる。



もっと詳しく学びたい方へ

1. スーザン・A・アンブローズ他『大学における「学びの場」づくり ーよりよいティーチングのための7つの原理』、栗田佳代子訳、玉川大学出版部、2014年
2. 栗田佳代子・日本教育イノベーションセンター編著『インタラクティブ・ティーチング：アクティブ・ラーニングを促す授業づくり』、河合出版、2017年
3. 池田光『図解 きほんからわかる「モチベーション」理論』、イースト・プレス、2008年
4. Sanna Järvelä and K. Ann Renninger „Designing for Learning: Interest, Motivation, and Engagement“ in: The Cambridge handbook of the learning sciences, 2nd edition, 2014.

まとめ

2. 自身の授業に取り入れたい、学生の学習意欲を高めるための工夫を「価値」「期待」「目標」「環境」という言葉を用いて説明できる。

→最後のワークで取り組みました。

3. モチベーションを高める授業実践のための工夫を実際に体験する。

→振り返りテストとジグソー法を体験していただきました。

